

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

平成18年度発生予察注意報第3号について（送付）
このことについて、平成18年度病害虫発生予察注意報第3号を発表しましたので、送付します。

注 意 報

平成18年度発生予察注意報第3号

平成18年7月31日
熊本県病害虫防除所長

農作物名 普通期水稻（特に普通期早植水稻）
病害虫名 トビイロウンカ

1 予報内容

- (1) 発生地域 県下全域（特に阿蘇地域）
- (2) 発生時期 8月中旬以降
- (3) 発生程度 多

2 注意報発令の根拠

- (1) 本年は5月8日にトビイロウンカの初飛来を確認し、これは平年より39日早い飛来だった。その後も6月上旬から断続的に飛来し、6月中～7月下旬現在まで数度の飛来波が認められた。主飛来は7月5～7日で、天草農業研究所（天草市）の予察灯で112頭、生産環境研究所（合志市）の予察灯で163頭と平年より多かった。また、過去10年で天草農業研究所では最も多く、生産環境研究所は2番目に多い誘殺数だった（表1、2）。
- (2) 7月中～下旬の巡回調査では、トビイロウンカの株当たり虫数は早期・早植水稻で0.15頭/株（平年0.02頭/株、前年0.02頭/株）と平年より多く、普通期水稻では0.01頭/株（平年0.01頭/株、前年0.01頭/株）と平年並の発生だった（表3）。また発生ほ場率は早期・早植水稻で63.6%（平年30.8%、前年36.4%）、普通期水稻で30.0%（平年13.9%、前年20.0%）と平年より多かった（表3）。
- (3) 生産環境研究所（合志市）の無防除田（6月20日移植、ヒノヒカリ）における7月18日の払い落とし調査では、トビイロウンカの株当たり虫数は0.27頭/株と、7月中～8月上旬の要防除水準（0.2頭/株）を上回った。
- (4) 7月28日福岡管区气象台発表の九州北部地方1ヶ月予報では、向こう1ヶ月の気温は平年並か高く、トビイロウンカの発生に好適な条件である。

3 防除対策及び防除上注意すべき事項

- (1) トビイロウンカは低密度に見えても増殖率が高く、秋には高密度となり坪枯れを引きおこす。ほ場内の分布にはムラがあるので極力ほ場全体の発生状況を確認し、8月上旬に0.2頭/株あたり発生を認めたら防除する。
- (2) 防除適期は幼虫のふ化揃い期である。本年の主飛来は7月5日であるが、6月中～7月下旬にかけて数度にわたり飛来しているため、ほ場で発生しているトビイロウンカの成育ステージを確認し、適期に防除する(図1参照)。
- (3) トビイロウンカは水稻の株元に生息するので、粉剤や液剤で防除する際は株元に付着するように散布する。
- (4) 薬剤散布にあたっては、農薬の使用基準を遵守し、薬剤の飛散に十分注意する。

表1 平成18年度 ヒイウツカ誘殺状況

調査日	ネットラップ		予察灯(60W 白熱灯)	
	天草市	合志市	天草市	合志市
6/11	0		0	0
6/12	0	0	0	2
6/13	0	0	0	0
6/14	0	0	0	0
6/15		0	4	0
6/16	0	0	2	1
6/17	0		4	0
6/18	0		0	0
6/19	0	0	2	0
6/20	0	0	0	0
6/21	0	0	0	0
6/22	0	0	0	0
6/23	0	0	0	1
6/24			0	0
6/25			0	0
6/26	0	0	0	3
6/27	0	0	1	4
6/28	0	0	0	3
6/29	0	0	0	2
6/30	0	0	13	0
7/1	0		0	0
7/2			18	6
7/3	40	0	7	6
7/4		0	0	0
7/5	6	0	69	135
7/6		0	14	14
7/7		0	29	14
7/8	欠測		7	2
7/9			1	0
7/10	0	0	0	0
7/11	0	0	4	
7/12	0	0	5	0
7/13		0	3	
7/14	0	0	4	0
7/15			0	0
7/16			0	0
7/17	0		0	0
7/18		0	0	0
7/19	3	0	8	0
7/20		0	0	0
7/21	0	0	5	6
7/22			0	0
7/23			7	2
7/24	0		2	2
7/25		0	1	1
7/26		0		0
7/27		0		0
7/28				
7/29				
7/30				
7/31				

主飛来

数日間まとめて調査した場合は、調査期間の最初の日にデータを記入した

表2 過去のトビロウカの予察灯(60W)白熱灯への飛来数

(半旬値)

1. 天草農業研究所(天草市本渡)

半旬/年	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H13~H17 平年値	H1~H17 平年値	H18
6.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0
3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	4
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.5	8
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	1.7	0
6	0	0	16	1	0	0	1	0	0	0	0.2	15.4	14
7.1	4	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0.0	78.2	94
2	10	32	0	0	0	0	0	0	4	25	5.8	110.0	51
3	16	21	6	0	0	0	0	0	0	30	6.0	32.8	16
4	26	2	8	1	0	0	2	0	0	1	0.6	123.4	8
5	19	0	11	0	0	0	0	0	1	0	0.2	3.6	15
6	0	1	5	0	0	0	0	0	0	2	0.4	5.4	

2. 生産環境研究所(合志市)

半旬/年	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H13~H17 平年値	H1~H17 平年値	H18
6.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	1
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0
3	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0.0	1.6	2
4	0	0	34	1	0	0	0	0	2	0	0.4	3.8	1
5	3	1	65	0	8	0	1	2	1	0	0.8	5.1	1
6	0	0	5	3	0	1	2	0	9	4	3.2	3.3	12
7.1	6	0	4	17	0	1	3	2	1	3	2.0	62.4	147
2	0	7	2	1	0	2	3	2	8	7	4.4	155.1	30
3	10	73	1	1	1	0	9	77	0	301	77.4	50.5	0
4	4	13	14	0	0	12	4	4	6	18	8.8	90.1	0
5	1	1	19	0	0	0	7	1	15	22	9.0	9.4	11
6	0	1	12	1	1	4	6	3	1	8	4.4	9.5	

主飛来日を含む半旬値には網掛け()を施した。

表3 巡回調査払い落とし結果

1 早期・早植水稻

調査日	調査地点	トビロウカ 頭/1株	成育ステージ別 (頭/50株)	
			成虫	幼虫
7月19日	天草市河浦町	0.00	0	0
7月19日	天草市本渡	0.22	1	10 若齢中心
7月19日	天草市有明町	0.08	0	4 若齢中心
7月19日	上天草市松島町	1.10	0	55 若齢中心
7月25日	錦町	0.00	0	0
7月25日	あさぎり町上村	0.00	0	0
7月24日	南阿蘇村 (旧長陽村)	0.06	1	2 中~老齢
7月24日	阿蘇市阿蘇町	0.08	0	4 中~老齢
7月24日	阿蘇市一の宮町	0.06	2	1 中齢
7月19日	山都町 (旧清和村)	0.02	1	0
7月19日	御船町	0.00	0	0

2 普通期水稻

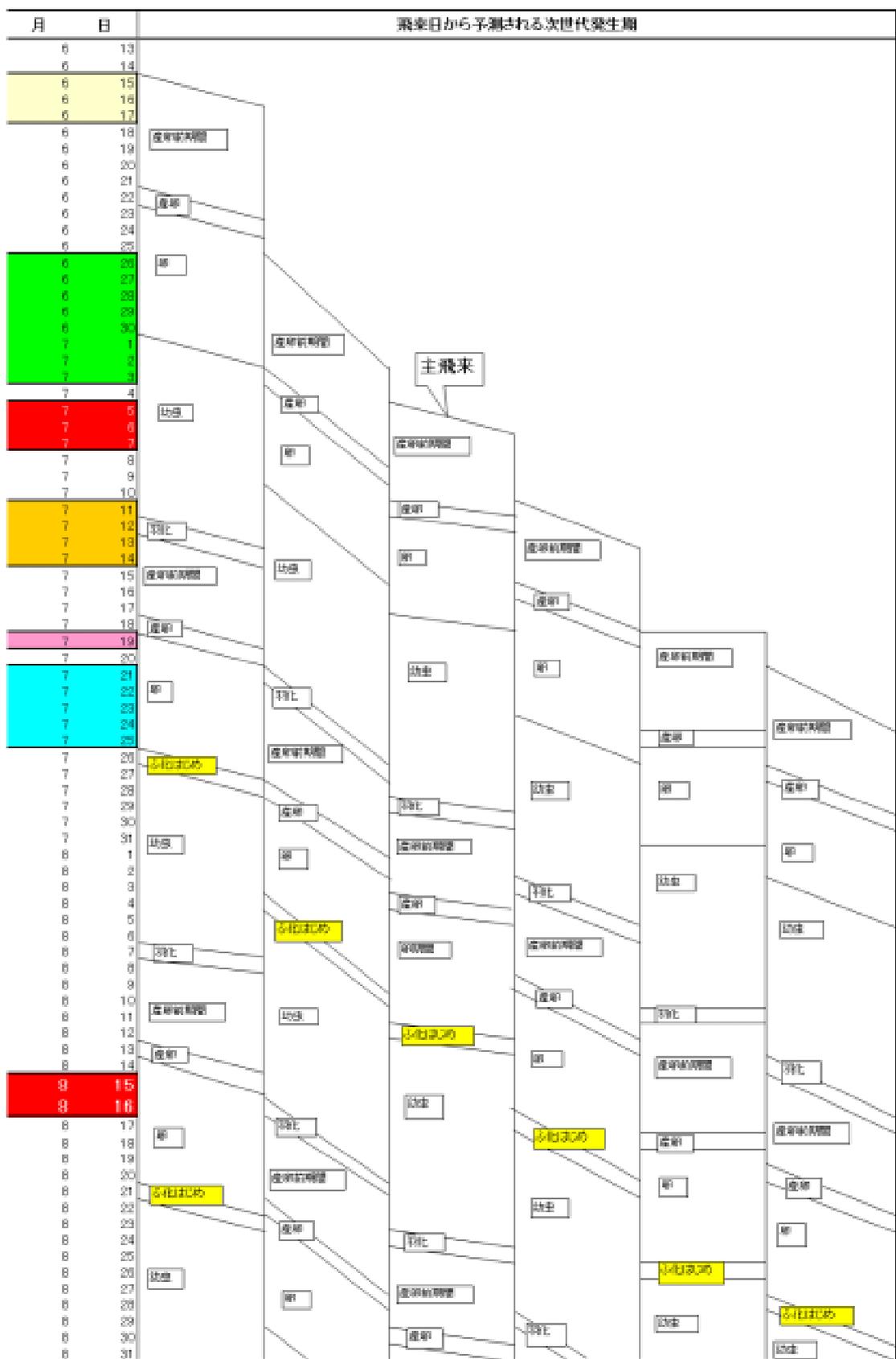
調査日	調査地点	トビロウカ 頭/1株	成育ステージ別 (頭/50株)	
			成虫	幼虫
7月20日	玉名市横島町	0.02	1	0
7月18日	山鹿市	0.00	0	0
7月25日	菊池市	0.02	0	1 若齢
7月25日	大津町	0.00	0	0
7月26日	熊本市1	0.00	0	0
7月26日	熊本市2	0.00	0	0
7月26日	嘉島町	0.00	0	0
7月19日	富合町	0.00	0	0
7月21日	氷川町 (旧竜北町)	0.00	0	0
7月24日	八代市	0.02	1	0

注) 1地点2ほ場、各25株調査

平年値との比較(株当たり頭数)

	早期・早植	普通期
H18平均	0.15	0.01
H17平均	0.02	0.01
平年(H13~H17平均)	0.02	0.01

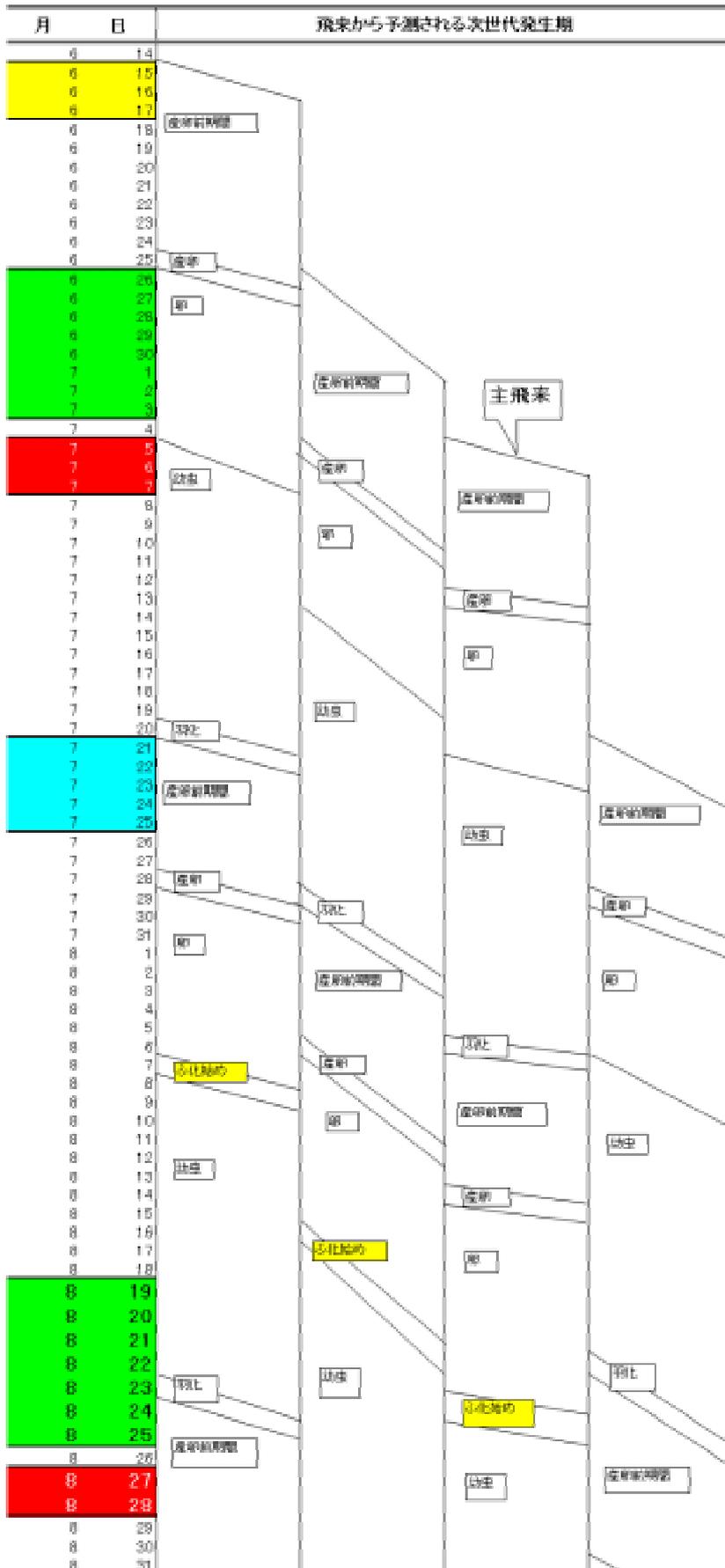
図1 トビイロウンカ次世代発生予測
(1)熊本市(アメダスデータ)



7月5～7日飛来の第2世代幼虫防除適期 → 8月15～16日ごろ(ふ化揃い期)

*卵～成虫 有効積算温度260日度、発青0点12℃
産卵前時期 100日度
総期間 1064日度、発青0点12.7℃
として算出した。

(2)阿蘇乙種(アメダスデータ)



6月26日～7月3日飛来の第2世代幼虫防除適期 → 8月19～25日ごろ(ふ化揃い期)
 7月5～7日飛来の第2世代幼虫防除適期 → 8月27～28日ごろ(ふ化揃い期)